北海学園大学

日本語教員養成課程

『報告書』第4号

北海学園大学 2018年3月

日本語教員養成課程報告書 第4号

特集:海外での日本語教師研修/海外での日本語教育体験(卒業生)

	次

1.	雲南日本語研究大会報告(於:中国雲南省雲南師範大学)	中川かず子	 2
2.	雲南日本語研究大会報告(同上)	菅 泰雄	 6
3.	雲南日本語研究大会報告(同上)	田之畑慶子	 10
4.	雲南日本語研究大会日程表		 13
5.	マラヤ大学(マレーシア)予備教育部での日本語教育	佐藤 公美	 14
6.	ケルン日本文化会館(ドイツ)での日本語・日本文化紹介	平川 俊助	 16
7.	済南大学(中国山東省)での日本語教育	井上みのり	 18
8.	蘇州大学(中国江蘇省)での日本語教育	寺崎民記哉	 21
9.	モンゴル文化教育大学(ウランバートル)での日本語教育	黄倉 陽一	 23
10.	モンゴル文化教育大学(ウランバートル)での日本語教育	浅海宏一郎	 25
11.	タイ・スリン県(東北部)中等教育校での日本語教育	大塚 聡子	 27

2017 年度 雲南日本語研究大会に参加して

人文学部教授中川かず子

「雲南日本語研究大会」は今年で6回目を迎えました。大会は雲南師範大学が主催し、雲南日本語研究会が共催という形で実施されました。雲南師範大学には国際交流基金「ふれあいの場」が設置されており、今回の研究大会も「ふれあいの場」の活動の一部として基金からも後援を受けたことが報告されています。雲南日本語研究会は、雲南師範大学を中心に、雲南大学、雲南大学文理学院、雲南大学滇池学院、雲南大学民族大学等において日本語を教える教員で構成され、年に数回の研究会を通して教員間の教育・研究交流を行なっています。

本研究大会は、2017年9月2日(土)、3日(日)の両日開催されました。別紙日程表の通り、本学から人文学部の菅泰雄教授と中川、そして卒業生でキャリアコンサルタントの田之畑慶子氏が講師として参加しました。1日目は雲南師範大学生、雲南大学の院生を中心に約40人の参加者が「ビジネスマナーと日本語」の講座に集まり、活発な質疑応答が行われました。2日目は午前が現地の日本語教師による研究発表、午後が菅教授と中川による「日本語・日本語教育」連携講座(ワークショップ形式)ということになりました。日本語文法の構造と意味、それと関連する具体的な教授法のあり方などが議論され、熱心に質問や意見が交わされました。以下、私が受けた質問に回答する形で報告していきます。

1.【動詞の指導法――常体(辞書形)が先か敬体(~マス)が先か――】

日本語学習者の立場で、しかも直接法で指導される場合は、活用の変化がほとんどない「ます形」のほうが易しいです*。また、会話的表現(おはようございます、よろしくお願いします、ありがとうございます、~です、など)でも「~ます」「~です」に慣れています。日常的に「パンを食べます/お茶を飲みます/学校へ行きます/…」の活用は動詞の種類に関係なく「~ます/~ません/~ました/~ませんでした」で済みます。しかし、辞書形、いわゆる、終止・連体形、完了(過去)形、接続(テ)形となると、「食べる~食べた/飲む~飲んだ/行く~行った…」という語尾変化が変則的になり、覚えこませようとすると学習者が大変です。授業では、教科書の練習問題のほかにコミュニケーション活動(実際の会話場面で会話する活動)を盛り込みながら、動詞の活用も覚えてもらうようにします。 *直接法は易~難へと配列することが基本で、媒介語による説明の場合は特に制限はないが、学生を混乱させないように指導することが必要。

2. 【限られた時間の中でどうやったら多くを学ばせることができるか】

教師は初級学習者に対してはある程度<u>わかりやすく、楽しく授業を主導する</u>役割はありますが、中級以上の学習者に対しては、<u>いかに主体的に学習させる</u>ことができるかが課題になります。学習者の日本語能力に関する目標のほかに、彼らの性格、関心分野、学習スタイルも把握した上で、学習動機を高める授業内容(教科書のほかに補助教材を作成)、教授法の検討、課題別学習のシラバスへの組み入れなどを考えます。

3. 【授業中真面目に参加しない学生にどうやって学習への参加意識をもたせるか】

この質問も2と同様に、学生の授業への動機づけをどう促すかという問題と関わります。クラス人数が多いと教師の目が行き届かないこともあり、「当事者意識」が薄れる傾向があります。20人以上40人位だと、グループの課題(タスク)を毎回与えてピア・ラーニング*(4~5人の各グループに積極的な学生を配置し、グループで課題遂行させる。)も効果があります。*ピア・ラーニング(Peer Learning-協働学習)参考図書:池田玲子・舘岡洋子(2007)『ピア・ラーニング入門―創造的な学びのデザインのために』ひつじ書房、ほか

4. 【ロールプレイによる会話例は談話分析~研究のデータになり得るか】

中国人日本語学習者のロールプレイ内容の分析を行う研究は可能です。特に中上級レベルの学習者の談話の(文化的)特徴、コミュニケーションスタイル、あるいは発話機能別(依頼、断り、助言、感謝など)の語用論的特徴を探る研究は過去にもいくつかあります。方法としては、ロールプレイ、談話完成(談話の一方が空欄になっていて、そこを埋める)、イラスト(漫画)に会話を埋め込むなどが見られました。授受文、受身文、敬語等の文法上の誤用を調べる研究もありましたが、近年は談話スタイル(ターンテイキング、発話量、コミュニケーションスタイルなど)、語用レベル(助言、依頼、断りなど)の特徴を探る研究が主流になっています。【参考:林宅男編著(2008)『談話分析のアプローチ―理論と実践』研究社、他】

5. 【認知スタイルと教授法、言語の認知的アプローチと教育現場での応用】

認知スタイル、学習スタイルは文化的な差異が認められ、特に、私が調査した英国人の場合は「分析的」で「主体的」な学習方法を好む学生が比較的多いです。クロスワードパズル、ジグソーパズル、タスク(Task-based learning 課題型学習)を教授法に組み込むと効果的だと思われています。*認知スタイルは、「分析型と統合型」「慎重型とリスクテイク(冒険型)」「熟考型と衝動型」「場独立型(FI)と場依存型(FD)」などの分類がなされ、D. Kolb(米国教育者)は性格(外向、内向)と FI(Field Independence) / FD(Field Dependence)をつなぎ4つの学習スタイルを提案しています。

6. 【認知言語学を教授法にどう反映させるのか】

外国語教授法の歴史の中で「認知学習理論」が出てきたのは、1960年代後半であり、それまでの Audio-Lingual 法に代表される 言語の構造的把握、言語構造の積み重ねを中心とした指導法に対する批判として、有意味的学習法の必要性を主張するものでありました。例えば、文法・会話分野であれば、助詞(ノ、ニ、デ、など)、指示詞、テンス・アスペクトなどの用法(文脈と場面による)により意味の違いを理解させます。語彙の意味も単一でなく、変化する可能性を理解させます。音声教育においても、単音や音素の種類や長さを理解させるのに、アクセント、イントネーションとともに指導するとよいです。聴解・読解において、単に「聞いて選択/聞いて書く」(聴解)、単語・表現の意味(辞書的)理解から全体の文章の理解(ボトムアップ式だけからトップダウン式理解との融合へ)につなげます。トップダウン式理解のために スキーマ(文化、常識、既習知識)の活用により予測、検証 が重要になります。

7. 【「中国人学習者と日本人教師の日本語学習に対する意識 一学習者の価値観、面子の学習姿勢への影響」— 「日本人教師の日本語学習に対する意識」の学習者への影響】

本研究は、中国河南省の日本人教師が比較的少ない高等教育機関での2年生と3年生と対象に行なわれた調査結果の分析と考察です。興味深い分析結果として、3点挙げられます――①中国人学生の8~9割は日本人教師が学生の面子に配慮しながら接していると感じるが、「中国人教師よりも日本人教師から面子を侵害されることが多い」と回答した学生が3年生で53%に上った(中国人教師による面子の侵害は35%、「ない」は12%)。――面子の侵害行為:「学生への公平を欠く」「学生の存在の軽視」(名前を覚えない、挨拶をしない、など)「教師の尊大な態度」「人前での指摘、叱責」(最も多い回答) ②面子侵害時の対応として、「学生なので仕方ないと諦める」「中国文化をわかってもらいたいので率直に意見を述べる」「(教師が)中国人なので言うべきことは言う」「(教師が)日本人だから仕方ないと思い、何も言わない」などが挙げられた。③日本人教師に対して、「真面目で厳しい」「言葉の壁がある」「文化、考え方が異なる」「指導法が異なる」などの理由で、中国人教師に対してよりも配慮する傾向があった――という点です。

8. 【中国人の日本語教員養成についての提言は何か】

中国における日本語教員(中国人、日本人)の専門性を高めること、教授法および日本語教育に関する知識と情報を教師間で共有できる環境を整えること⇒そのために、日本人教員を採用する際も、できるだけ日本語教育に関心があり、教育能力の向上に努力を惜しまない方が望ましいと思います。(日本語教育経験がなくても)社会経験の豊かな方が教師採用の優先条件のようですが、この点については見直していただきたいです。雲南省のように教師間ネットワークがあると、研究会、勉強会、講演会等を行なうことで新人教師は経験豊かな教師から学び、互いに切磋琢磨し、情報交換も可能になります。

◎その他の質問――読解力をつけるための方法ほか

中上級学習者に対する教授法を考える時、「学習者の主体的な読み」を常に意識することが大事です。まず、シラバスとしては、テーマ別、話題別、表現機能(依頼、断り、注意喚起、助言、など)別、専門分野別などがあり、学生の日本語レベルとニーズを勘案して決定します。次に、個人読解、グループ読解(ピアラーニング)を適宜取り入れて、ボトムアップ(辞書、語彙表などの利用)式だけでなく、トップダウン(スキーマの活性化、関係資料の提示、クイズ、タスクを多用)式の理解が進むよう教材を考えます。理解したことを口頭で表現し、そして文章表現へとつなぐようにすると、総合的な技能が身に付きます。

(中国では、「聴読解」力が必要とされます。読解と同様、聴解内容についても音を聞くというより情報をつかんでもらうトップダウン式理解を促す工夫が望ましいです。)





雲南日本語研究大会2日目 菅泰雄教授と中川による日本語教師研修

2017 年度 「雲南日本語研究大会」 に参加して

人文学部教授 菅 泰雄

2017年9月2日(土)、3日(日)の両日、雲南師範大学外国語学院日本語科主催、国際交流基金「昆明ふれあいの場」・雲南日本語研究会共催による「雲南日本語研究大会」が雲南師範大学外国語学院で催された。「日本語教育と日本語文法」というテーマのもと、中川かず子教授と筆者による、現地の日本語教師、大学院生を対象にワークショップを実施した。

「日本語教育」にとって、「日本語」の知識と「教授法」の知識・技能が2大柱であることは言うまでもない。現在、本学の日本語教員養成課程のカリキュラムには、「日本語学概論」や「日本語学特論」などの科目が開講されているが、日本文化学科の専門科目としてのもので、教職(国語)の教科に専門科目にもなっているが、「日本語教員養成課程」専用の日本語教育に特化したものではない。もちろん、そのような授業で得られる、いわば基礎的かつ体系的な知識も必要であるが、日本語教育の視点に立った「日本語教育学的日本語学」とでも言うべき内容の授業が必要であると常々感じていた。

現実には、このような授業がさまざまな事情で実現出来ないでいたが、今回、昆明の地で日本語 教授法の中川教授と一緒のワークショップで、「日本語学」と「日本語教授法」とのコラボレー ションの第一歩が実現したことは、貴重な経験となった。

今回の企画は、2016年3月26日~3月27日に開催された「第一回中日国際日本語教育研究大会」(中国雲南省雲南大学滇池学院)に参加したことがきっかけであった。筆者は、第一分科会「教育・言語」で講演を行ったのであるが、参加者の教員、院生の日本語、日本文化に対する貪欲なまでの関心の高さ、熱意に心を打たれたのである。微力ながら、彼らの熱意に応えようということで、この度の訪中となった。

現場で必要とされる、より実践的な内容となるように、あらかじめ現地の中国人日本語教師から「質問事項」を寄せてもらい、準備を進めた上で出向いた。

本稿では、寄せられた質問のうち、主に筆者が担当した「日本語学」関連の項目について紹介することにする。日本語教育の現場に未だ立ったことのない学生にとっては、「日本語学」の授業で取り上げられている内容が、実際にどのように役に立つものなのかが、実感できない弱みがある。外国人(中国人)日本語教師は、どのような疑問を持っているのだろうか。それに対して、どのように答えたらいいだろうか。日本人日本語教師の立場で考える参考になればと思う。さらに進めて、これらの知識に基づいてどのように教えたら効果的か、考えてみてほしい。

(Q は、一部、例文などで省略した部分もある)。紙幅の関係で、A には答えるためのポイントを示すにとどめる。)

問題 1. 「思う」と「思っています」

Q:教科書の解釈では、「~ようと思います」と「~ようと思っています」の区別は、後者の方は決心がまだつかないというニュアンスがある、と書いてあるが、ほかの教科書では、この二つの表現にはあまり区別がないとの説明があります。「~ようと思います」と「~ようと思っています」というこの二つの表現にはどういう区別があるのか。

|教科書からの引用|

"~ようと思います"☆ "~ようと思っています"都表示决心或意思。但由于后者用 "~ています"的形式,所以有一种决心或意志尚最后形成的语感。

A:⇒まず、この教科書の説明の妥当性を確認する。

その上で、「と思う」と「と思っている」の文法知識を整理する。

主語との関連。主語が「私」の場合と「3人称」の場合。

誤用が生じる原因。

対照言語学的知識 (外国語とのズレ)

John thinks that winter in Japan is cold.

小李觉得日本的冬天很冷.

⇒英語、中国語では文法的。

根底にあるのは、日本語の感情形容詞の人称制限。

(私は)うれしい。/*太郎はうれしい。

cf. 太郎はうれし {そうだ/うれしいのだ}。

{I am / John is} glad. {我/小李} 很高兴.

関連事項

田中先生は酒を飲みすぎて困る。/田中先生は酒を飲みすぎて困っている。(主語の違い)

問題 2. 従属節におけるテンス・アスペクトの意味、連体修飾語のテンス

Q:従属節におけるル形と夕形の意味、連体修飾語のテンスについて教えてください。

A: 文法知識の整理

従属節と絶対テンスと相対テンス (主節のテンスとの関係)

連体修飾語(名詞修飾節)のテンスは、必ずしも相対テンスとは言えないこと

ル形 vs タ形の意味の捉え方(「現在/過去」と捉えることの問題)

中国語とのズレ 「~ている」と「動作継続・結果継続・結果残存」との関係

問題 3. 丁寧体と普通体のスピーチシフト~文体の混在~

- Q:次の用例はほとんど丁寧体を使うべき場面であるが、あえて常体(普通体)を使っている ところがある。そこにはさまざまな語用論的意味機能があると思うが、どう理解すればい いか。
 - (1) 【他地方からの観光客に店の料理をアピールする】 「お味はいかがですか? お口に合いますか? これ<u>ね</u>、自家製で<u>ね</u>、素材は富良野産 にこだわっているんだよ。」
 - (2)【手術を迎えて不安そうな顔をしている70代の患者に、看護師が話をかける】

「今日の体の調子はいかがですか? あのね、主治医もポジティブに言ってましたし、 あんまり心配することないよ。手術終わったら、すぐ自由にあるけるからね。もう ちょっと頑張りましょうね。」

(3) 【事故にあった被害者にインタビューをする】

A:「現在、どういう心境ですか?」

B:「悔しいのと申し訳ない気持ちだけです。全部自分の責任です。助けられなかった…」

(4) 【インターネットで品物を購入した主婦が担当者に電話をかけて】 「ちょっと、写真と色がだいぶ違うじゃない! これ、返品してもらえますか?」

(5) 【結婚式場にて、新婦のお父さんが婿に向かって】 「できの悪い娘だが、チカコのこと、よろしく頼みます。」

A:スピーチ・シフト

丁寧体と普通体、距離感の調節表現としての敬語、社会的上下関係、親疎関係、恩恵・被恩 恵関係、公的・私的場面、ポジティブ・ポライトネス、「伝達」と「表出」

問題 4. テキストとテンス・アスペクト

- Q:過去形で何かを記述したり、語ったりする文章の中で、下線部のように時々普通体が使わ れることがある。それはそれぞれ何かの動機付けや意味があると思うが、分類することが 可能であろうか。それに関する研究の論文や著作があれば、紹介してほしい。
- 例 …清兵衛は十二歳でまだ小学校に通っている。彼は学校から帰ってくると他の子供とも遊ば ずに、一人よく町へ瓢箪を見に出かけた。そして、夜は茶の間の隅に胡座をかいて瓢箪の手 入れをしていた。手入れが済むと酒を入れて、手拭で巻いて、かんにしまって、それごと炬 燵へ入れて、そして寝た。翌朝は起きるとすぐ彼はかんを開けてみる。瓢箪の肌はすっかり 汗をかいている。彼は厭かずにそれを眺めた。それから丁寧に糸をかけて陽のあたる軒へ下 げ、そして学校に出かけて行った。

A:前記、問題3 のほかに、

タクシス(出来事の時間的推移、同時性と継起性、談話文法、「はなしあい」と「かたり」 の世界

問題 5. 与格主語構文 (ニ主語)

Q:日本語において、いわゆる心理動詞や可能などを表す接尾辞が述語と結びつく場合や、所 有、必要などを表す状態述語の場合、与格主語構文が生じると指摘されている。久野 (1978) では、「主語ガ+目的語ガ+動/形容/形容動詞」の構文をとれるもののうちの一 部のみが「主語二+目的語ガ動/形容/形容動詞 | のパターンを取り得るが、どんな述語 なら入れ替えができるかは「全く各単語固有の特質によるものであって意味の上から推定 することはできない」としている。

状態述語である「できる | 「ある | 「好き | 「~たい | などは、なぜ、次のような違いがで きてしまうのか。

- 1) 私に(は) 英語ができる。 2) 私に(は) 妹がある。
- 3) *私に(は)彼が好きだ。
- 4) *私に(は) お茶が飲みたい。

いわゆる「与格主語構文」の適用範囲について説明していただきたい。

また、5) と 6) において、与格の使用と不用とでどんな違いがあるのかも教えていただきたい。

- 5) a. 私は、英語が全くわからない。
 - b. 私には、英語が全くわからない。
- 6) a. 私は、真相がだんだんわかってきた。
 - b. 私には、真相がだんだんわかってきた。

以上のような問題を、どんな教授法を使えば学生に理解してもらえるかも教えていただきたい。

A: 「二格+ガ格+述語(動詞)」という格配列の構文

ニ格の意味役割(位置・場所)ほかに(与格、対象格、原因格、目的格、時格など)

二主語、二主語と「尊敬表現」との関係

ガ格:主語(文の成分)・格(主格)・意味役割(動作主)

存在文、二重主語構文との関係

問題6 「ば」と「なら」「たら」の使い分け

Q:条件表現について説明して教えてください。

A:条件の典型としての「仮定条件」

その他の条件表現(反事実的条件、確定条件、恒常的条件、事実的条件)と条件を表さない「と・たら」、「ば」と誘導推論解釈、後件の内容による違い、条件表現と方言差

問題7. 判断のモダリティ「はずだ」「わけだ」「のだ」

Q:「はずだ」「わけだ」「のだ」の意味、使い方について、教えてください。

A: 「はずだ」: 話し手の確信、論理的帰結

中国語とのズレ(「应该」はずだ/べきだ)との関わり

人称制限

「わけだ」: 帰結説明、言い換え、因果関係

「のだ」: 説明説、関連づけ説の検討、理由説明、言い換え、解釈、発見・気づき その他の用法(決意表明、命令)

「の」の特性(名詞化、現場性、既定性など)

前提と焦点

問題8 日本語言語学研究の動向

Q:日本語言語学研究の動向について教えてください。

A:現在の研究動向、学的水準についての目配り

各種学会の機関誌

講演記録 「仕事ができる人の ビジネスマナー」を終えて

2009年日本文化学科卒、キャリアコンサルタント 田之畑慶子

2017年9月3日、北海学園大学人文学部 菅泰雄教授、中川かず子教授両名が参加された雲南師範大学外国語学院日本語学科主催の雲南日本語研究大会で、私も講演する機会をいただきました。研修講師としての仕事柄、ビジネスマナーについての登壇の機会が多く、以前より日本語学習者の方々へ日本のビジネス場面で実際に使われている会話、習慣、マナーをお伝えしたいという強い希望があり、実現いたしましたことに大変感謝しております。出発前の事前打ち合わせより、学生の方々の日本語習得レベルの高さや卒業後の方向性をお聞きしていたため、実際に日本企業の新入社員研修で使われている内容で講演することに決め、資料の準備をいたしました。

講演記録では、使用した資料、写真、そして研修終了後の質問について報告していきます。

研修内容

①ビジネスシーンにおける身だしなみ

身だしなみについて自由な会社もありますが、多くの企業が暗黙の約束があります。 「どんな規則があると思いますか。」と、いう投げかけからはじめました。

業界にもよりますが、日本企業は男女ともにスタイルの基準が設けられている企業が多い事と併せて、学生から社会人になる際に、企業内新人研修で学ぶ内容をそのままお伝えしました。日本企業、現地日本法人への就職を希望されている方が多いと伺っていたため有効な情報かと考えました。

[学生のリアクション]

企業によりますが、カラーリングやワイシャツの色まで規則があることに驚きを隠せない様子が見られた以外は、さほど驚いた様子はありませんでした。事前に、インターネットを通して日本企業の文化への情報をお持ちの学生さんが多いように見受けられました。

②挨拶とお辞儀

日本の若者においてもビジネスシーンでの挨拶や正式なお辞儀は覚えることは難しいとされています。ペアを組みこれらをロールプレイすることで体を通して挨拶とお辞儀を身に付ける 展開にしました。

場面設定

職場の朝のあいさつ

職場の午後のあいさつ

応接室・会議室・他部署からの入廷室時

仕事が終わって退社するとき

外出先からもどったら

外出先の社員からの電話には

外出していた社員が戻ったら

来客を迎えるときは

取引先の社員とのあいさつ



ペアになり実際に角度を意識して15度、 30度、45度の挨拶を実践することで、臨場 感も高まり言葉遣いも習得できていました。

[学生のリアクション]

挨拶の角度を楽しみながらもペアを組むことでお互いの実践状況の確認も進み適切に挨拶ができていたように思います。

場面での言葉がけの違いに戸惑われる方や 日本語表現の多様性に苦労される方も見られ ました。



③ビジネス電話の応対

ビジネスの電話の基本的な流れの説明を行いましした。 電話の取次ぎを在席時と不在時に分けてロールプレイしました。

電話対応練習のためにスクリプト資料を準備しました。

電話対応の際の心得をお伝えした上で、ペアとなりスクリプトに沿った流れで在席時と不在 時の両パターンでロールプレイを行いました。

[学生のリアクション]

電話という顔の見えない設定かつ不在時対応時の初めての言い回しに大変苦労される場面が 見受けられました。

身内へのへりくだり表現については、学習が必要な学生の方もいらっしゃいました。 ペンを受話器がわりにしたロールプレイは、臨場感を感じられる様子でした。

4名刺交換

日本の名刺交換は世界でも珍しいほど、頻度が多いと言われており挨拶に必要不可欠な道具であるということから始めました。

各人の名刺は準備できませんでしたが、同サイズのカードを使って多くの方とのロールプレイ(名乗りを含めた)を実践しました。

〔学生のリアクション〕

名刺入れの準備が必要なことと同時にどのような名刺入れがビジネスシーンで使われているのかを考える機会になったようです。また、一枚のカードを分身のように丁重に扱う事に、違和感を感じる方もいたようでした。

電話対応と同じく、名乗り方については難しさを感じる方が多く見受けられました。

⑤来客応対

エレベーター、応接室や乗り物にビジネス対応と席次があることをお伝えしました。新人社 員の代表的な仕事としてお茶出しがある企業もいまだに多いことも併せて紹介しました。 時間の関係上、ロールプレイは割愛しましたが、練習問題をとおして学習しました。 中国における考え方と重なる部分も多く、理解のスピードはかなり早かったと考えます。

日本語やマナーについての質問よりは、企業風土に関する質問が多く出ました。

女性学生から、「日本のホテルでの接客業で眼鏡をかけての合格は難しいのでしょうか?」や「接客業ではハイヒールを必ず履かなければいけないのでしょうか?」など、インターネットを通してなかなか吸収できない企業の潜在的な考え方に関心が高かったように思います。

参加者の日本語理解レベルには差があると考えていましたが、ロールプレイへの取り組み姿勢からヒアリング能力の高さを感じました。日本で、あるいは現地の日本企業での就職を実現するためにビジネス周辺の情報は学習意欲向上の支援になると考えます。



雲南日本語研究大会案内

雲南師範大学外国語学院日本語科主催 「昆明ふれあいの場」(国際交流基金後援)、雲南日本語研究会共催

期 日 9月2日(土)・3日(日)

会 場 雲南師範大学外国語学院 209 教室

研究会の内容

9月2日(土)

午後2時 講座 (学部生を中心に)

講師 田之畑慶子 株式会社日本マンパワー カウンセリング業務・研修講師 テーマ 「ビジネス場面における日本語とマナー」

司会・進行 譚 盈盈 (雲南大学滇池学院)

9月3日(日)

午前 発表 (院生・教師を中心に)

10 時~11 時 発表者 **孫 定標**(師範大学院生 3 年)

テーマ 「なぜ日本で宦官が制度化されなかったか」

11 時~12 時 発表者 **張 蔚** (雲南大学講師)

テーマ 「日本語の授業及び日本語教育のあり方について

――昨年の研修から学んだこと――|

午後 講演 (院生・教師を中心に)

14 時~17 時 講演 1 菅泰雄教授 北海学園大学

テーマ 「日本語文法に関する内容」

講演 2 中川かず子教授 北海学園大学

テーマ 「日本語教育に関する内容」

司会・進行 楊 佳 (雲南師範大学) 陳 斌 (雲南師範大学)

マラヤ大学予備教育部 日本留学特別コース(AAJ)で 日本語を教えて

2014年文学研究科修士課程修了、国際交流基金日本語教育専門家 佐藤 公美

マラヤ大学はマレーシア最初の大学であり、最高学府として知られています。クアラルンプールの南西に位置し、キャンパスは車移動が必須なほど広大です。そのマラヤ大学の中に「Pusat Asasi Sains: Center for Foundation Studies in Science」と呼ばれる予備教育部があります。そこでは、高校卒業後1年間(または2年間)理系の大学に進学するための予備教育が行われています。マレーシアの教育は日本のシステムとは少々異なり、たいてい高校は2年間で終わり、その後SPMと言われる、高校卒業試験を受け、その結果により大学の予備教育部(またはdiploma コース)に進めます。そして、予備教育部での成績等により、最終的にどの大学に進学できるかが決まります。マラヤ大学予備教育部にはマレーシアの大学に進学するためのコースの他に、「Ambang Asuhan Jepun(以下 AAJ)」と言う、日本の大学へ留学するためのコースがあります。AAJ はマハティール前首相が行った LOOK EAST POICY(東方政策)¹により、1982年に作られ、日本政府も協力している特別コースです。36年目を迎えた現在は1年生62名、2年生59名が在籍しており、マレーシアでの2年間および、日本での4年間はマレーシア政府から奨学金を貰って勉強します。

AAI での2年間では、日本で出来る限り支障なく学習に入れるような日本語力と主要基礎教科 に関する学力(日本の高校卒業程度)を身に付けます。そして、日本留学試験や AAJ の定期試験 等に合格できた学生のみ日本へ留学することができます。現在は国立大学工学部にのみ進学が可能 です。そのため、2年間という短い期間で、日本語だけではなく、物理、数学、化学も勉強しなけ ればなりません(しかも、日本語で!)。AAJでは講義、およびチュートリアルは、マラヤ大学の ローカル講師に加え、日本語科は国際交流基金から派遣された日本語専門家が担当し、理系教科は 文部科学省から派遣された各都道府県の物理、数学、化学の高校教員が担当します。AAJに入学 した時は、ひらがなも知らないような学生に、2年間で日本の大学で学べるくらいの日本語力を身 に付けさせるのは、教師にとっても、学生にとっても、とても大変なことです。どのくらい大変か と言うと、例えば、入学して2週間は1日7時間の日本語の集中授業があります。初めて日本語を 習う学生がほとんどですが、1週間でひらがな、カタカナの読み・書きを完璧にしなければなりま せん。なぜなら、2週目からは『みんなの日本語』を使用した文法の授業も始まり、毎日出る宿題 を日本語で行わなければならないからです。さらに漢字の授業も始まります。また、3週目以降は 午前8時~午後6時まで日本語に加え、物理、数学、化学、英語の授業が始まります。そして、毎 日小テストがいくつもあり、毎週テストもあります。各セメスター(2年間で全4セメスター)の 最後には定期試験があり、その結果が悪いと、退学させられます。このような厳しい環境で頑張っ ている学生を見ていると、教師側にも熱が入ります。

日本語科の日本人教師は朝8時半から午後5時半までが基本的な勤務時間となっていますが、遅 い授業があるときや、追試を行うこともあり、たいてい午後7時くらいまで仕事をしていることが 多いです。授業の準備や、採点に追われ、外が暗くなってから帰宅する日が続くこともあります。 AAIで教え始めた頃は、文化の違いから戸惑うことも多々あり、自分の知識不足を感じたことも ありました。マレーシアは多民族国家と言われ、大きく分けてマレー系、中国系、インド系の国民 で構成されています。マレーシアの国教はイスラム教ですが、多民族国家であるため、その他の宗 教や文化も尊重されています。しかし、マラヤ大学は国立大学のため、大学の規則は少々厳しいで す。特に、AAJの学生はブミプトラⁱⁱで、ほとんどがムスリムであるため、独特なルールがあり ます。まず、服装ですが男子学生は基本的にシャツにネクタイ(礼拝がある金曜日はバジュマラ ユ)、女子学生はマレーシアの伝統的な服であるバジュクロンを着ています。教師側も男性はシャ ツにネクタイで、女性はできるだけ肌の露出がない服装をしなければなりません。そのため、毎日 暑いマレーシアで長袖、長ズボン(またはロングスカート)を着ています。木曜日は「batik day」 と言い、batik (ろうけつ染め) のシャツを着る男性や、スカートをはく女性もいます。建物の中 はエアコンが効いているのでいいのですが、外に出ると、汗だくになります。今はもう慣れました が、最初の頃は辛かったです。また、マレーシアのムスリムの多くはスンニ派で1日5回お祈りを しなければならなく、金曜日になると男性はモスクでの礼拝があるため、お昼休みが3時間もあり ます。さらに、授業の始めと終わりにも短いお祈りがあります。うっかり忘れてしまい、授業を始 めようとして学生に「先生、お祈りがあります」と言われたこともあります。そして、一番気をつ けなければならないことは、異性にふれてはいけないということです。授業中に寝ている男子学生 がいても、気軽に肩をたたいて、起こすことはできません。また、イベントで盛り上がっても、女 子学生とはハイタッチできますが、男子学生とはできません。入学したばかりの男子学生がプリン トを渡す際に、隅の方を持って、絶対に私の手にふれないようにしていたのがとても印象的でし

た。このような厳しいルールはありますが、もちろん10代の若者たちですから、AAJ内でカップルができることもありますし、いることもあります。そういう姿は日本の学生たちら見ています。厳しいコース修り見ています。厳しいコース修りし、学生全員が無事AAJを修りし、日本へ留学できることを願っています。そして、自分たちの夢を叶えて欲しいです。



学生の皆さんと(中央が私です)

i LOOK EAST POLICY (東方政策)

¹⁹⁸¹年12月にマハティール前首相が発表した、東方重視政策。西欧よりは、むしろ急速な発展を遂げた、日本・韓国等東方諸国に目を向け、その勤労倫理や経済哲学、技術を学んで、マレーシアの工業近代化と発展を加速させようとする政策。

マレー語で「土地の子」を意味し、マレー系マレーシア人および、オラン・アスリ(土着の少数民族)を指す。

成人教育における日本語教育

──ドイツ・ケルン日本文化会館での実践報告-

2007年文学研究科修士課程修了、国際交流基金日本語教育専門家 平川 俊助

私の派遣先であるケルン日本文化会館(ドイツ語で Japanisches Kulturinstitute.以下、JKI)は、国際交流基金のドイツ支部として 1969 年に開設され、ドイツ語圏における日本文化の紹介、交流事業、日本語学習と日本研究の支援を目的に様々な活動を行っています。

私は日本語教育専門家として 2015 年に派遣され、主に日本語講座の運営に携わっています。今回は講座運営の様子と、そこから垣間見えるドイツ社会について報告します。

JKI 日本語講座は 1970 年にドイツ語母語話者の学習者を対象にした日本語講座として開講されました。しっかり日本語能力を身につけたい学習者を対象にした週 2 回の「日本語コース」、1 回学びきりの「日本語入門講座」、日本語学習未経験でも参加できる「日本文化体験講座」、そして「若者言葉」「アニメ・マンガの日本語」「歴史の日本語」など、あるテーマに関する日本語を学ぶ「テーマ別講座」といったように、様々な形の日本語学習を提供しています。嬉しいことに受講生数は年間で述べ 5~600 人程と大変好評で、人気のある講座ではキャンセル待ちが出るもしばしばです。

私たち専門家は講座の企画から、広報、教材の開発、授業の実施まで、運営全般の業務を現地の 講師と協力しながら行います。

JKIの日本語講座はいわゆる「一般成人教育」に位置づけされ、15 才以上であれば誰でも受講ができます。そのため、学習者の背景が様々であることが特徴です。例えば、学習の動機や目的は「日本のアニメ・マンガが好き」、「日本へ旅行に行く予定がある」、「過去に大学で日本建築を学んだ」、「子どもが日本人と結婚して孫が生まれた」……などなど多岐にわたります。

また、学習者の年齢層や職業も幅広く、最も多いのは20代と30代の大学生や社会人、次いで10代の中学生や高校生ですが、40代や50代以上の方や定年退職後の方にも目立ちます。

そして学習者のルーツや母語も多様です。受講前に実施するアンケートの結果から、母語がドイツ語だけでなく、トルコ語、イタリア語、スペイン語、ペルシャ語、ベトナム語……など、今や5人に1人が移民の背景を持つと言われるドイツ社会ですが、日本語講座でもその縮図を垣間見ることができます。

多様な学習者が集まる一方で、多くの学習者に共通していることもあります。それは、大半の学習者は仕事や学校の成績のためではなく、趣味や興味のために日本語を学んでいるということです。また、日常的に日本語を使う学習者は一部に限られ、週1か2回の授業でしか日本語を使わないという学習者も少なくはありません。成人教育が盛んなドイツでは、語学だけでなくスポーツや芸術の教室が至るところで開かれています。認可があれば州から支援を受けられるため受講料も安

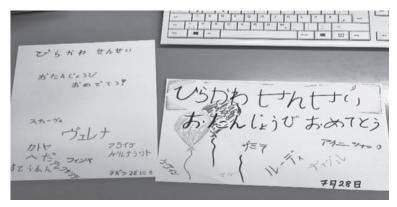
価で、結果として多くの学びの場が提供されています。日本語もまた、こうした日常の習いごとの 1つとして市民に受け入れられています。

このような JKI 日本語講座での経験は、私にとって教師の役割を改めて見直す機会となっています。例えば、学習時間と日本語接触場面が限られている環境では、教室で身につけられる日本語能力にも限りがあります。また、JKI の学習者にとって日本語学習は趣味や教養の一環であり「楽しむ」ことを目的に教室に来ています。こうした状況では、学習初期の段階から成果や達成感が得られるような工夫や、全ての学習者が心地よく過ごせる場を作ることを考慮する必要があります。そして、年齢や職業や背景が異なる学習者が集まる教室では学習者の学習スタイルや学習進度も異なるため、教師は常に自身の授業スタイルを調整する必要があります。

このように JKI 日本語講座では幅広く柔軟であることが求められ、やりがいのある現場です。 また、異文化接触がますます活発になっていく現代において、多様な人々が集る場の存在はますま す重要になると考えます。 JKI の教育経験から得た視点は、きっと今後に活かせるのではないかと 思います。



授業の一コマ



誕生日に学習者からメッセージ

海外の教育現場事情

─中国山東省済南大学での日本語教育─

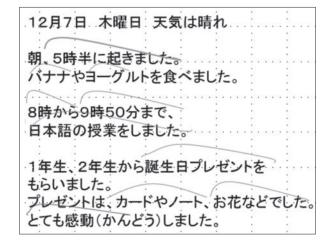
2017年文学研究科修士課程修了 井上みのり

みなさんこんにちは。私は現在、中国山東省の州都、済南市にある済南大学にて日本語を教えています。済南大学には英語、韓国語、フランス語など外国語学科があり、日本語科もその1つで英語科に次ぐ人気の学科となっています。以下は担当している授業の1週間のスケジュールです。1年生の会話、2年生の聴解、4年生の精読、それから短期間ですが他学部生の会話授業も行いました。本稿では最も担当時間の多い会話授業(1年)についてご紹介します。

		月	火	水	木	金	土	日
1	8:00~	会話1年	聴解2年	精読4年	会話1年			
2	9:00~	会話1年	聴解2年	精読4年	会話1年			
3	10:10~		会話1年	会話1年				
4	11:10~		会話1年	会話1年				
5	14:00~						他学部	他学部
6	15:00~						会話1年	通読2年
7	16:10~						会話1年	通読2年
8	17:10~						会話1年	通読2年

日本語科の学生は、漢字を母語としているという強みもあり日本語の読み書きに長けている学生が多いです。その反面、課題として挙がるのが「聞く」「話す」の技能です。特に「清音・濁音の区別」「長音、撥音、促音」「アクセント、イントネーション」などは中国人学習者にとっても難しいようです。このような「聞く」「話す」能力を伸ばせるよう、会話の授業でも重点的に練習することが重要となります。

例えば、以下の画像は文全体のイントネーションを練習させるように線を引いたものです。各課の単語の読み方、アクセント練習だけではなく、文全体の韻律も意識させます。



次に以下の会話文を見てください。

A: 楊さん、今週の日曜日、何かありますか。

B: 今週の日曜日はアルバイトがあります。

A: どこでですか。

B:市内の喫茶店です。

A:何で行きますか。

B:スクールバスで行きます。

A:何時から何時までアルバイトしますか。

B:9時から16時までです。

上記のスクリプトは教科書『新経典日本語 会話教程』の第四課の一例です。しかしこの文章のまま会話練習をすれば、時間や場所、移動手段を一方的に尋ねるようにも読み取れます。そこで、 【場面】【状況】を設定し【会話の開始・終了時の表現】【相槌表現】を付帯することで、会話がより自然になるように工夫します。

【場面】大学での会話

【状況】A・Bは友人同士。Bのアルバイト終了後に待ち合わせをして一緒に遊びたい。

p.58 挑戦してみましょう

A:___さん、今日の日曜日、何かありますか。 B:今週の日曜日はアルバイトがあります。

A:どこ(で)ですか。

B:済南市内の喫茶店(で)です。

A:何で行きますか。

B:スクールバスで行きます。

A:何時から何時までアルバイトしますか。

B:9時から16時までです。

A:じゃ、16時半にお店に行きます。

B:分かりました。待ってます。



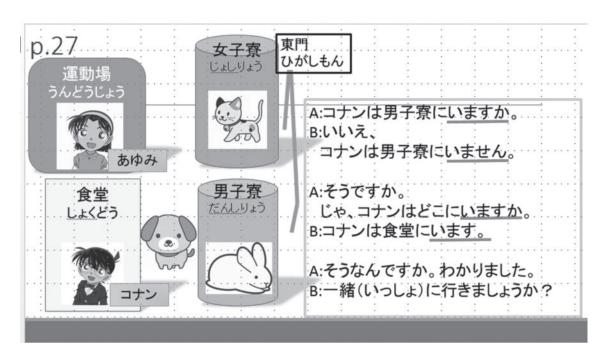


読み合わせの時には、「ああ」「はい」「16 時までですね」「えーと」「そうですね…」「じゃあ」などの相槌表現を適宜加えます。また、「用事」「場所」「手段」「時間」を学生にも自由に決めてもらい、ペアで待ち合わせを想定した会話練習をしてもらいます。時には、デモンストレーションの際に教師自ら携帯や手帳など小道具を用いて「日曜日ですか?ええと、ちょっと待って下さいね…」のように、芝居を打つこともあります。なるべく学生達が自然に活用でき、発話の場面も想定しながら練習できるよう、コミュニカティブな会話授業を心掛けています。



学生と話していると、その多くが日本のアニメ、マンガ、ゲームに関心があることに気が付きます。日頃学生達とワンピースや進撃の巨人など人気のあるマンガについて話すこともしばしばあります。なかでも名探偵コナンは有名で、名台詞「真相只有一个(真実はいつも一つ)」は学生全員に知られていました。また日本のドラマやバラエティを通じて俳優やアイドルのファンになり、日頃から日本語に積極的に触れている学生も少なくありません。

そこで授業のなかでも、学生達が関心のある題材を取り入れるように心掛けています。例えば PPTには「太郎」「花子」ではなく学生に周知されている「コナン」「あゆみ」を、買い物のアク ティビティには「君の名は」「ドラえもん」など実際の本を並べるなどの工夫を施しています。学 生達の反応もさることながら、彼らにとって慣れ親しんだ題材と日本語の表現を結び付けて覚えて くれるため、授業も捗ります。



日本語教育を通じて中国の学生達と交流することで、日本や文化への関心、学習意欲の高さを 日々感じています。日本語教師という立場から、彼らの熱意や目標のための一助となれるよう、こ れからも努めていこうと思います。

蘇州大学の日本語教師経験で 学んだこと

2016年文学研究科修士課程修了/中国江蘇省蘇州大学日本語専任講師 寺崎民記哉

北海学園大学大学院修士課程を修了後、2017年から中国で日本語教師をすることとなりました。本来であれば、2016年8月から中国で勤務する予定だったのですが、ビザ取得等に時間がかかり延期し、2月頭から渡航し、以来現在まで日本語教師をしています。

最初は、国際交流基金日中交流センターの新規事業である、ふれあいパートナーズ(日本語パートナーズの中国版に近い取り組み)として吉林省の延辺朝鮮族自治区にある延辺大学で教師をしました。延辺大学では半年間教師をした後、諸事情で契約更新を断り、現在は江蘇省蘇州市にある蘇州大学で教えています。蘇州は日本人も多く住んでおり、大型スーパーや衣料品、外食産業等日系の企業も多く進出しているため、生活に困ることが少ないです。さらに、治安も良く本当に住みやすい街です。

蘇州大学は、学生は優秀で授業も教えやすく、大学の構内の雰囲気は北海道大学と似ていて親しみやすさを感じています。また、過去に北海学園大学のOB(人文一期生の平山崇先輩)が教師をした経験があり、その方が優秀な教師だったため、私も他の中国人の方々からとても良くしてもらっています。平山氏は教科書を作成し、未だにその教科書は授業で使われており、とても刺激を受けています。

蘇州大学では、蘇州大学本校の他に、蘇州大学文正学院、蘇州大学応用技術学院(周荘)と3校にまたがって教えています。後者の2校は中国の大学によくある国立大学が作った私立の分校です。蘇州大学本校とは違い、地方にあるため片道数十分から1時間かけて毎朝通勤バスで移動しています。学力に差があるため、語学能力においても本校と分校ではかなりの差があり、モチベーションも分校ほど低いです。結果、やりがいの無さや長距離移動もあり日本人・中国人共に分校で教えたがるのを嫌がっています。授業の分担をする際も、そこの負担が教師間の悩みの種になっています。

私も分校で教え、学生から全く反応が無くどう教えるのが良いのかと常に試行錯誤する日々でした。いくら準備をしていても、学生からの反応が無いと教師のモチベーションは下がってしまいます。私のみならず、同僚の日本人教師や中国人の教師ですら同様の感情を抱き、彼等にはこの程度でいいとどこか妥協して教えていました。こういった経験を糧にして、研究の題材にしたいと今は考えています。

中国で教えて感じたことは、北海道を知っている人が本当に多いということです。そして、北海 道出身だと言うと興味を持たれとても嬉しいです。いつの日か、私も北海学園大学の後輩に蘇州大 学で教えられるようにバトンを渡せることが出来たらと思っています。



中国延辺大学「ふれあいの場」で教員、学生と(前列右から3人目が私)



中国延辺大学「ふれあいの場」研究会で(後列左から3人目が私)

モンゴル文化教育大学での 日本語教師体験(1)

2017年2部日本文化学科卒業 黄倉 陽一

モンゴル文化教育大学での日本語教師体験は私の人生にとってすごく大きな経験になりうるだろうと感じています。一人での海外での生活、未知の文化に触れること、海外の実際の日本語教育現場に立ち入ること等、語り切れないほど多く、また日本で生活しているだけでは決して経験できない貴重なものであると思います。

特に強く感じているものは日本語教師としてあるいは外国にいる日本人としての喜びと寂しさです。寂しさについて一番に感じることはやはり言葉の壁でした。モンゴルに滞在しているのでもちろん周りはすべてモンゴル語で、通行人から漏れ聞こえる会話や町の看板など何一つ理解できず、ふとした瞬間に海外に来たことを強く実感させられます。また通行人などまったく関係のない人だけでなく、自分の周りのお世話になっているほかの先生方や生徒たちでももちろん母語で話すことのほうが圧倒的に多く、彼らにその意思はまったくないとわかってはいても疎外感を感じてしまうことが多々あります。そして学校が休みの日もまた問題で、生徒たちとどこかに出かけるというイベントがあれば問題はないのですが、一人でいるときは簡単な買い物以外出かけたくても出かけられず、ついこれが日本だったらと郷愁の思いに駆られることが多々あります。

そんな寂しいことがたくさんある生活ですが、もちろん寂しいだけではありません。むしろ寂しいよりも嬉しいことや楽しいことのほうが圧倒的に多い生活ではないかと思います。嬉しいことと楽しいことの一番はやはり生徒たちです。彼らに接している時間はとても充実していて、あっという間に過ぎ去ってしまいます。朝授業が始まる少し前にたまたま会った生徒たちと挨拶や雑談を交わして、何か冗談を飛ばすのは私の一日の活力になっています。他の国も他の学校も知らないため、この学校だけなのか、モンゴル全体なのか、それとも学生とは世界中こういうものなのか私には判断できませんが、私の生徒はとても人懐っこく、優しく、少し悪戯好きでよく笑うので、私はとても恵まれていると感じます。

しかし、そんな生徒たちともあと四か月で離れなければならないと考えるととても寂しく感じます。また大使館試験や日本の大学の入試に合格し夢を叶え少し早く巣立っていく生徒も多く、寂しさと同時に喜びも感じるとても複雑な気持ちです。この気持ちがきっと教師の気持ちなのだろうと思います。そしてこの気持ちが私を成長させるのだろうと感じています。

以前、一度日本語教師の資質とは何かと聞いたことがありました。それは忍耐だと記憶しています。その時は何のことなのか全く理解できませんでしたが、モンゴルに来てその言葉がとても深く理解できるようになりました。日本語教師をやっていく上でとても多くの問題があります。生徒や他の職員に言葉が通じないなどの当たり前の問題はもちろん、それ以外にも学校のカリキュラムと

生徒のレベルがマッチングしていないことや、様々なことで授業が予定通り進まないことなどたくさんの問題があります。またそれだけでなく、上で述べたように、一人である寂しさに加え、自然環境と文化が時として壁となりぶつかることがあります。これらの問題に一つ一つ忍耐強く対処して解決していくことが日本語教師の資質なのではないかと私は感じました。

またそれだけでなく、この言葉の本当の意味はもっと先にあるのではないかと私は考えています。ただ忍耐が必要な仕事を誰もやりたがるわけがありません。一つ一つ忍耐強く解決していった 先にきっと大きなやりがいや喜びがあるのだと私は考えています。

モンゴルに滞在して八か月、まだまだその先にあるものは見えていませんが、これからの四か月 を精いっぱい過ごして何かほんの少しでも見えたらいいなと考えています。

またそれ以外にも景色や文化、見えるもの触れるもの感じられるものすべてにアンテナを広げ、 可能な限りすべてを吸収していこうと考えています。なぜならそれは間違いなくここでしか手に入 らない貴重な経験であるからです。



夏のキャンプで(1) 左側は本学卒業生で日本語教師の浅海さん、右から3人目が私です。前の3人の男子は学生です。



夏のキャンプで(2) 右が私です。ほかは学生です。変顔でポーズ!

モンゴル文化教育大学での 日本語教師体験

2017年英米文化学科卒業 浅海宏一郎

私は2017年3月に大学を卒業し、同年9月から、モンゴルのウランバートルにあるモンゴル文 化教育大学で日本語教師として勤務しています。

モンゴルの新学期は9月からですが、一緒に教える黄倉陽一さんと私は7月上旬にモンゴルに渡り、大学が運営するツーリストキャンプで1ヶ月ほど生活していました。キャンプで生活している間は、実習生としてキャンプで働く学生たちに日本語を教えていました。学生たちは新2年生がほとんどだったため、1年生で学んだ基本的な文法やキャンプのレストランや乗馬の際に使うフレーズなどを主に教えていました。授業はたいてい夜に行っていたため、学生たちは仕事終わりでとても疲れていたと思いますが、私の授業を熱心に聞いていたのが印象的でした。その他にも、逃げた馬を追いかけるために山に入ったり、薪を取りにいくなどの学生たちの仕事を手伝ったり、往復6時間の乗馬体験をするなど、身体的にはとてもハードではありましたが、普段はできないような貴重な体験ができました。

9月から新学期が始まりましたが、私は、教育実習以外で日本語を教えた経験がなかったこともあり、最初から苦労の連続でした。

私が最初に感じた苦労は、教案や教材の作成といった授業の準備です。教育実習のときは担当する授業数も少ないので、準備にいくらでも時間をかけることができましたが、実際に教師として働くようになると、担当する授業が増え、1つの授業の準備にかけられる時間は限られてきます。それでも、すべての授業内容は学生たちの期待に応えられるようなものでなければなりません。今では、それほど時間をかけずに授業の準備ができるようになりましたが、最初のうちは、授業の準備が深夜になっても終わらず、十分な睡眠がとれない日々が続きました。

どのような授業においても大変な点はありましたが、特に大変だと感じたのは、1年生の文法の授業です。ほとんどの1年生の学生は初めて日本語を学ぶので、最初のうちは、私の指示が伝わらない、コミュニケーションがとれないなどといった問題がありました。しかし、時間がたつにつれて、学生たちも次第に私の言葉を理解できるようになり、コミュニケーションがとれるようになったことから、私と学生たちとの距離も縮まりました。また、各学年に共通する課題は、熱心に授業を受ける学生もいる一方で、あまり授業に来なかったり、来ていても、あまりやる気が見られない学生がいることです。このような学生たちに授業内容に関心を持たせ、授業に参加させることができるように、試行錯誤を続けています。

教師生活と同様に苦労したことは、初めてのモンゴルでの生活です。特に私の場合は、初めての 一人暮らしでもあったため、慣れるまでに時間がかかりましたが、困ったときにはいつでも先生方 や学生たちが助けてくれたおかげで、毎日快適な生活を送ることができるようになりました。

モンゴルに来てから半年以上経ったものの、仕事面でも生活面でもまだまだわからないことが多いですが、素晴らしい先生方や学生たちに恵まれ、充実したモンゴルでの教師生活、そして、はじめての社会人生活をスタートさせることができました。

私が日本語教師になりたいと思うようになったきっかけは、日本語教育に興味があったからというよりも、海外で働きながら生活してみたかったから、というものでしたが、実際に日本語教師として日本語を教えるようになり、学生たちの日本語が次第に上達していくのを見て、日本語を教えることの面白さに気付きました。また、学生たちの反応はとてもわかりやすく、学生たちが授業を楽しいと感じていたり、よく理解できているときは表情でわかるので、嬉しく思いますが、一方で、授業が面白くない、内容が理解できていないというのもすぐに伝わってくるので、悔しさを感じることもあり、自分の経験不足や勉強不足を痛感し、学生たちの期待に応えられるようなよりよい授業ができるよう、日本語教育や教授法についてもう一度勉強し直したいと考えるようになりました。(下の写真はキャンプで学生達と撮ったものです)



日本語教師 in Thailand (一年間) を振り返って

北海学園大学 日本語教員養成課程 2016 年度修了 大塚 聡子

世間でいうところのアラフィフ世代ですが、人生の後半戦は海外で仕事をと常々考えていました。そのために具体的に動き出した 2015 年、40 代最後の歳に北海学園の日本語教員養成課程へ勇気を出して通うことにしました。若い学生たちに気後れを感じながらも 2 年間の課程を修了し、その後ご縁に恵まれ、東南アジア・タイにおいて日本語教師としての仕事を得ることができました。

2017年5月、イサーンと呼ばれるタイ東北地方のスリンという町にある公立中高一貫校で私の日本語教師としての生活が始まりました。タイといってもバンコクであれば北海道から直行便もありますし、大都会で地下鉄もあり先進国と大差ない生活では…と思われるかもしれませんが、ここスリンはバンコクから長距離バスに揺られること7時間強、ネットで調べても11月に象祭りが行われる以外は、さしたる情報もなく、実際訪れてみても観光的要素はあまりない一中小都市です。英語はほとんど通じず、公共交通も食事をする所も英語表記はほとんどありません。しかしそれゆえ、地元の人々と同様の生活を送って本物のタイを体感しつつ、じっくり日本語を教えることができる環境にあります。

私が勤務するシリントーン校は、日本でいう中学1年生から高校3年生までが生徒として通っています。1学年16組まであり、1クラスの人数にはばらつきがありますが、約30~45名位なので、相当なマンモス校です。

タイの中学高校では、英語の他に第二言語を学べる学校が少なくありません。シリントーン校では第二言語として日本語が含まれています。言語を専門的に学ぶクラスでは、第二外国語のクラスは週6時間、理系などその他のクラスでは選択科目として週2時間あります。私は週6の専門のクラスを1つと週2の選択クラス6つ(共に高校2年生)を受け持っています。

私はタイ語がほとんどできない状態でこの学校に来ました。外国語学習はダイレクトメッソド (日本語を日本語で教える)が理想と考えていましたし、文法の説明や生徒とのコミュニケーションは英語でなんとかなるだろうと考えていました。

しかし、実際は理想と現実にはかなりのギャップがあります。クラスにもよりますが、1クラス 40人以上、クラス内で学力、英語力、それまでの日本語習得レベルにばらつきがある、となる と、経験が浅く、生徒の母語も理解できない日本語教師としては、頭を抱えざるをえません。

まずは聞く耳をもってもらうために教材を工夫してタイ語の説明文を示したり、時には覚えたてのタイ語も交えたりと、毎日が試行錯誤の連続です。ダイレクトメッソドや英語を媒介語にする教え方で聞く耳を持ってくれる生徒は学力レベルや学ぶ意識が高い一部の生徒というのが現状です。そろそろ日本語教師1年目というところで、ほんの少しだけ手ごたえを感じてきたかな、という段階です。

私の勤務先だけではないと思いますが、海外で日本語教師として教壇に立つ場合、経験ゼロであってもマニュアルが全くない場合があります。私も最初は教科書すら用意されていなく、引き継ぎもなく、はい明日から教えてくださいね、でした。その場合、養成課程で習ったことをベースに自分でなんとかするしかありません。大変な作業ですし、生徒の反応がその都度心に突き刺さりますが、その反面自分で作り上げていく楽しさもあります。

この地で日本語教師としての基礎を固め、どんな国・生徒でも日本語を教えることができるようになることを目標に、これから残りの人生の生業としていきたいです。

(写真は当校で行われた Advanced Language Camp の模様。英語・仏語・日本語等のブースがあり、各ブースをグループに分かれた中学 3 年生が体験し、来期にどの科目を選ぶかの参考にする。中学 3 年生グループの前であいさつやひらがなを教えている 3 人は私の教え子の高校 2 年生。自分の教え子が後輩に教えている光景に感慨深いものがありました。)



北海学園大学 日本語教員養成課程報告書 第4号

編 集 北海学園大学日本語教員養成課程委員会 (委員長 中川かず子)

発行日 2018年3月31日

発 行 北海学園大学日本語教員養成課程委員会

〒 062-8605 札幌市豊平区旭町 4 丁目 1 番 40 号

TEL (011)841-1161 (内線)2621 (中川研究室) / FAX (011)824-7729

